

## 上尾市障害福祉施策推進委員会委員意見

項 目	意 見	回 答
アンケート	<p>・アンケートの取り方について 身障者手帳所持者の抽出を行う時、高齢者に偏らないよう年齢上限を設ける等の工夫が必要ではないか。 回答者の半数近くが75歳以上では「身障者」としての実像を反映しているとは言い難く、結果の妥当性にも関わってくる。</p>	アンケート対象者が75歳以上に偏らないように抽出します。
	<p>また、身障・知的の両方の手帳を持っている人の回答がどちらに含まれているか、今後医療的ケア児者という立場の人も出てくるので、アンケートの取り方の再考をお願いしたい。</p>	アンケート対象者に重度心身障害者を入れます。
	<p>・アンケート項目について ①コロナ下で外出が何回かなどの質問を通して社会とのつながりの度合いを図ることは適切か？</p>	外出の手段や目的などを中心にした質問項目にします。
	<p>②障害児（保護者）について、いわゆる共働き状態なのか、ひとり親で働いている人なのか、分かる工夫をすることで、保育や放課後支援における保護者の就労保証がどの程度まで実現できているかが分かるのではないか。</p>	質問項目に、共働きやひとり親などの家族構成についても入れます。
	<p>③障害児の回答年齢が12歳未満が71.6%であるのに、成人向け福祉サービスに関する質問をしても「利用無し」「知らない」が多くなって当然であろう。現時点での利用状況と今後の利用意向の対比に使いたいのであれば、回答を求める年齢層を分ける等の工夫をしないと、ニーズの把握とは言えないのではないか。</p>	障害児の利用が想定されないサービスの質問については、省きます。

## 上尾市障害福祉施策推進委員会委員意見

項 目	意 見	回 答
問題解決	<p>・単独での移動が困難な障害のある方において、家族支援に頼ってしまっている現状（家族が何かあった場合はそれらの利用を休まざるを得ない状況が多い。また、そもそも利用できない現状がある）</p> <p>①移動系サービスの不充実 例）現在の移動系サービスは、事業所利用、通学等の目的では原則使用できない     普通級・支援級では学校側の送迎が無い     特別支援学校の送迎も自宅ではなく、送迎車両待ち合わせ場所まで移動が必要     短期入所・日中一時利用等も事業所側での送迎がない事が多い</p>	今後の検討課題
	<p>②通所系事業所における送迎の不充実 例）地域限定での送迎になってしまっているため、利用したい事業所に通えない     朝・夕の定時以外での送迎が難しい場合も、利用したい事業所に通えない</p> <p>⇒以上のような状況を地域の仕組みとして解決する方法があるのか、検討したい</p>	今後の検討課題
	<p>・特別支援学校の卒業進路選びのための在校中実習（午前・午後、5日間が多い）を地域の事業所で協力・受け付けているが、事業所側の職員の負担は大きい。事業所を利用する確約がある訳ではなく、また実習日数分の報酬も事業所側にないという現状もある。今後続いていく大事な実習でもあるため、良い協力体制にする意味で、学生の体験実習に限り何等かのインセンティブを付与、もしくは総合支援法の柔軟な活用など検討をしてはどうか。</p>	今後の検討課題
部会	<p>・障害当事者の声をどのようにくみ取るかが問われており、部会を設けるならば、当事者が発言できるような場となることを期待したい。</p>	アンケートの結果を基に、必要に応じて、部会を設置します。